実践研究

保育者養成校における授業内容の課題を探る
― 領域「表現」の授業を通して ―

木　許　　隆　　岡　田　泰　子
岐阜聖徳学園大学短期大学部　　中部学院大学短期大学部

An examination of issues regarding class contents in childcare educator training courses
Regarding “expressions” throughout classes

Takashi KIMOTO, Yasuko OKADA

キーワード：領域　表現　音楽　授業改善

Ⅰ．はじめに

平成29年（2017年）３月31日、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が同時に改正・告示され、平成30年（2018年）４月１日より施行された。そして、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得するために必修とされる科目について、授業内容を見直さなければならない状況になった。

筆者たちが担当する科目は、本来、保育内容における領域「表現」の中に属する科目である。そして、音楽、造形、身体、言語など子どもの表現活動について総合的に学ぶことが望まれている。しかし、筆者たちが担当する科目では、造形、身体、言語などを担当する教員と連携して授業展開することから、音楽分野に特化した内容を授業展開している状況にある。

本研究を行うにあたり、齋藤・木許（2017）[1]において、教員の専門性に委ねられてきた領域「表現」に関わる科目の授業内容及び展開方法を見直し、授業計画及び具体的な授業内容を検討している。そして、総合的に領域「表現」を捉える観点から、授業内容を精査し科目間連携を行っている。

本研究は、保育者養成校において筆者たちが担当する科目の授業内容を比較し、その課題を把握した上で授業改善へと繋ぐためのものである。そして、平成30年（2018年）より施行された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に則した授業計画及び具体的な授業内容を確立したいと考えている。

Ⅱ．目的と方法

本研究は、現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に則した授業計画及び具体的な授業内容を確立することを目的としている。

そして、以下の方法で研究を進めるものとする。

① 筆者たちが担当する科目の授業内容を記録しまとめる。
② 筆者たちが担当する科目の授業内容を比較し、幼稚園教育要領 第２章 感性と表現に関する領域「表現」と照合する。
③ 授業内容の課題を挙げ、その課題について考察する。

Ⅲ．研究内容

１．Ａ短期大学の現状

Ａ短期大学では、科目名を「保育内容研究（音楽表現Ⅰ）」とし、演習１単位、幼稚園教諭免許及び保育士資格取得のための必修科目として開講している。そして、受講生は、２年生106名を２クラスに分割し２コマで授業展開している。

授業内容における「手あそび・指あそび」では、保育現場で用いられるあそびについて実践している。

「歌あそび」では、生活の歌、季節の歌、行事の歌について実践している。「ピアノ・テクニック」では、子どもの表現活動を導くピアノ曲を演奏する前段階として、効率的な運指について実践している。そして、「表現の理論」では、領域「表現」の指導法にもふれながら、子どもの表現活動について学習している。また、模擬保育の一環として子どもの歌の弾き歌いを発表する機会を設けている。

Ａ短期大学における授業内容の詳細を以下の表にまとめる（表１）。

表１　Ａ短期大学における「保育内容研究（音楽表現Ⅰ）」の授業内容

回	授業計画	授業内容			
		手あそび 指あそび	歌あそび	ピアノ テクニック	表現の理論
第１回	授業計画及び授業内容の説明。「幼稚園教育要領」の変遷から領域「表現」を探る。	あおむしでたよ・あくしゅでこんにちは	一年生になったら	半進行で指の動きに慣れる	子どもと表現・三つの法令の変遷
第２回	領域「表現」と音楽的な表現活動を知り、あそびのおもしろさを習得する。	あたまかたひざポン・あなたのおなまえは	ことりのうた・春がきたんだ	平行進行で指の動きに慣れる	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿
第３回	幼児教育における音楽の役割を考え、指導計画を立てる。	１丁目のドラネコ・１ぴきの野ねずみ	こいのぼり・公園へ行きましょう	1-2・5-4 を広げる	領域「表現」のねらい・内容・内容の取扱い
第４回	弾き歌い伴奏法の実践①を通して表現力を身につける。		手のひらを太陽に		
第５回	子どもの音楽的な表現活動（うたう・きく・ひく・うごく・つくる）を知る。	はじまるよはじまるよ・とんとんとんとんひげじいさん	あめふり・あめふりくまのこ	2-1・4-5 を広げる	５つの活動を通して
第６回	日本の幼児音楽教育の歴史と変遷を知る。	いっぽんばしにほんばし・いとまき	シャボン玉・はをみがきましょう	1-5・5-1 を広げる	明治時代以降の音楽教育の歴史と変遷
第７回	表現活動の過程と評価の考え方を探る。	いわしのひらき・おにのパンツ	水あそび・たなばたさま	2-3・4-3 を広げる	動きの表現を題材とした過程と評価
第８回	子どもの発達過程を考え、指導計画を立てる。	大きなくりの木下で・おべんとうばこ	とけいのうた・すてきなパパ	3-4・3-2 を広げる	発達過程に応じた指導計画
第９回	弾き歌い伴奏法の実践②を通して表現力を身につける。		とんぼのめがね		
第 10 回	世界の音楽教育を知る。	おむねをはりましょ・グーチョキパーでなにつくろう	トマト・かたつむり	弱い指の練習	ダルクローズ、コダーイ、オルフの音楽教育
第 11 回	子どもの想像力をふくらませる教材（絵本・紙芝居・パネルシアターなど）を知る。	こぶたぬきつねこ・コロコロたまご	アイスクリームのうた・ホホホ	３コードによる伴奏づけ（ハ長調）	絵本を題材に言語と音楽の融合
第 12 回	教材を用いた指導計画を立てる。	ちいさな庭・チョキチョキダンス	キャンプだホイ・すうじのうた	３コードによる伴奏づけ（ヘ長調）	すうじのうたを題材に教材の作成
第 13 回	弾き歌い伴奏法の実践③を通して表現力を身につける。		ヤッホッホ夏休み		
第 14 回	子どもの楽器、その演奏法を知りアンサンブルを経験する。	パンダうさぎコアラ・グーチョキパーで何つくろう	うんどうかい・うんどうかいのうた・はしるのだいすき	３コードによる伴奏づけ（ト長調）	楽器の成り立ちと演奏方法
第 15 回	まとめ			ピアノによる表現発表	

２．Ｂ短期大学の現状

Ｂ短期大学では、科目名を「保育内容（音楽表現）Ⅰ」とし、演習１単位、幼稚園教諭免許及び保育士資格取得のための必修科目として開講している。そして、受講生は、１年生99名を３クラスに分割し

１コマで授業展開している。また、３名の教員によるオムニバス形式を採用しており、学生は、「音楽あそび（リトミック）」、「歌唱」、「器楽」をそれぞれ４回ずつ受講することになっている。「音楽あそび（リトミック）」では、保育現場を想定した音楽的なあそびを中心にして、その指導法について学習している。「歌唱」では、保育者に必要とされる発声について学習している。「器楽」では、子どもの楽器あそびにおける援助方法について学習している。但し、本研究では、「音楽あそび（リトミック）」を研究の対象としている。

授業内容における「手あそび・指あそび」では、子どもの発達に応じた手あそびを実践し、その効用や目的を学習している。「歌あそび」では、生活の歌、季節の歌などレパートリーの拡充を目指し、学生が楽曲のイメージをふくらませながら豊かに表現する力を培っている。「音楽の理論」では、リトミックを用いて読譜力の基本となるリズム（拍、音価）を学習している。そして、「表現の理論」では、保育者として子どもへのイメージを明らかにすることを目指し、０歳児から５歳児までの発達過程を社会性や表現の育ちの視点から学習している。また、各授業では、対象となる子どもへの関わりを想定しながら、保育者としての姿を考えるレポート作成を行なっている。

Ｂ短期大学における授業内容の詳細を以下の表にまとめる（表２）。

表２　Ｂ短期大学における「保育内容（音楽表現）Ｉ」の授業内容

回	授業計画	授業内容			
		手あそび 指あそび	歌あそび	音楽の理論	表現の理論
第１回	様々な音とリズム	１本ばしこちょこちょ	おはよう	リトミックを用いて、拍とリズムの違いを理解する。	０歳児の特徴
第２回	拍とリズム、様々な音	あおむしでたよ・オノパトペの活用	おべんとう・はをみがきましょう・お手玉の活用	リトミックを用いて、４分音符、８分音符、２分音符を理解し、スキップのリズムへ発展する。	１、２歳児の特徴
第３回		ちいさな庭	あめふり・パネルシアターの活用	リトミックを用いて、音の強弱を理解する。	３、４歳児の特徴
第４回	拍と拍子、様々なリズムと音（速さ・強さ）	とんとんとんとんとんひげじいさん	おかえりのうた・さよならのうた	リトミックを用いて、音の高低を理解する。	５歳児の特徴

３　幼稚園教育要領 第２章 感性と表現に関する領域「表現」との照合

幼稚園教育要領 第２章 感性と表現に関する領域「表現」[2] と２短期大学における授業計画及び授業内容を照合し、指導できている部分と不十分な部分を把握する。

表を作成するにあたり、十分に指導できていると考えられる内容には◎、一部指導できていると考えられる内容には○、指導が不十分であると考えられる内容には△、指導できていないと考えられる内容には×を付した（表３）。

表３　幼稚園教育要領 第２章 感性と表現に関する領域「表現」との照合

	項　　目	Ａ短期大学	Ｂ短期大学
１ねらい	（１）いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。	△	△
	（２）感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	○	○
	（３）生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	○	△
２内容	（１）生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりする。	○	○
	（２）生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	△	△
	（３）様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。	○	◎
	（４）感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。	○	○
	（５）いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。	×	×

2内容	（6）音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。	◎	◎
	（7）かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。	△	×
	（8）自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。	◎	◎
3内容の取扱い	（1）豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。	◎	◎
	（2）幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。	◎	○
	（3）生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること。	○	△

4　幼稚園教育要領 第２章 感性と表現に関する領域「表現」との照合の結果

研究内容１及び２において、２短期大学における授業内容をそれぞれ表にまとめ比較した。その結果、Ａ短期大学では、歌あそびの分野において春、夏の教材を取り上げることが多く、教材の季節感に偏りが見られた。そして、ピアノ・テクニックでは、ピアノの技術に偏り、子どもの表現を導くピアノ曲を取り上げることはなかった。また、Ｂ短期大学では、オムニバス形式による授業展開を採用しているため、「歌唱」、「器楽」を担当する教員の授業内容が明らかにならなかった。しかし、リトミックを用いて音楽の理論を学習する方法は特筆すべきところである。

以上、表３より本研究において明らかになった現状をまとめた。尚、「１ねらい」は、計画及び実施の範囲外で期待する学習成果として捉えた。そして、「３内容の取扱い」は、「２内容」を取扱う上で保育者が配慮する事項として捉えたため、「２内容」についての結果をまとめた。

（1）生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりする。

Ａ短期大学の授業では、様々な音や動きなどに気付いたり、楽しんだりすることについての内容を指導できた。しかし、色、形、手触りなどに気づいたり、楽しんだりすることについての内容は指導できなかった。このことから、一部指導できていると考えられるため○を付した。Ｂ短期大学の授業では、様々な音や動きなどに気付いたり、楽しんだりすることについての内容を指導できた。そして、パネルシアターなどを用いて色、形などに気づくことについての内容も指導できた。しかし、学生が自発的に色、形、手触りなどに気づいたり、楽しんだりすることについての内容は指導できなかった。このことから、一部指導できていると考えられるため○を付した。

（2）生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。

Ａ短期大学の授業では、音楽を再現するときにイメージを抱くことについての内容を指導できた。しかし、生活の中で美しいものや心を動かす出来事にふれることについての内容は指導できなかった。このことから、指導が不十分であると考えられるため△を付した。Ｂ短期大学の授業では、歌詞を書き出し、読み込むことによってイメージを豊かにすることについての内容を指導できた。しかし、授業内で取扱う教材数が少なく、多様な音楽にふれることについての内容は指導できなかった。このことから、指導が不十分であると考えられるため△を付した。

（3）様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

Ａ短期大学の授業では、音楽を通して感動したことをグループワークなどによって伝え合うことについての内容を指導できた。しかし、子どものあそびを通して感動したことを伝え合うことについての内容は指導できなかった。このことから、一部指導できていると考えられるため○を付した。Ｂ短期大学の授業では、オノマトペを活用しながら様々な擬音を伝え合うことについての内容を指導できた。そして、身体表現へと発展する内容も指導できた。このことから、十分に指導できていると考えられるため◎を付した。

（4）感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。

Ａ短期大学の授業では、保育者として音楽を捉え、感じたり考えたりしたことを音として再現することについての内容を指導できた。そして、伴奏付けなどを通して即興性のある音楽表現についての内容

も指導できた。しかし、自由にかいたり、つくったりすることの内容は指導できなかった。このことから、一部指導できていると考えられるため○を付した。B短期大学の授業では、保育者として音楽を捉え、感じたり考えたりしたことを音として再現することについての内容を指導できた。しかし、自由にかいたり、つくったりすることの内容は指導できなかった。このことから、一部指導できていると考えられるため○を付した。

（5）いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

２短期大学の授業では、ともに様々な素材に親しみ、工夫して遊ぶことについての内容は指導できなかった。このことから、指導できていないと考えられるため×を付した。

（6）音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。

A短期大学の授業では、音楽に親しむだけでなく音楽を再現する技術や歌を歌い子どもに指導する方法、楽器の扱い方や演奏方法などについての内容を指導できた。これは、音楽分野の内容であり、十分に指導できていると考えられるため◎を付した。B短期大学の授業では、リトミックを通して音楽の基礎的な理論を理解することについての内容を指導できた。そして、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズムを演奏したりすることについてふれる内容も指導できた。このことから、十分に指導できていると考えられるため◎を付した。

（7）かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。

A短期大学の授業では、音楽を指導するための教材作成においてかいたり、つくったりすることについての内容を指導できた。しかし、１回のみの指導となり、子どものあそびに用いたり、飾ったりすることについての内容は指導できなかった。このことから、指導が不十分であると考えられるため△を付した。B短期大学の授業では、かいたり、つくったりすることを楽しみ、あそびに使ったり、飾ったりする内容を指導できなかった。このことから、指導できていないと考えられるため×を付した。

（8）自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。

A短期大学の授業では、音楽を通してイメージする動きを表現したり、言葉で伝え合うことを経験したりすることについての内容を指導できた。また、それらを模倣あそびへと発展させ、自ら演じて遊ぶことの楽しさを味わうことについても指導することができた。これは、音楽分野の内容であり、十分に指導できていると考えられるため◎を付した。B短期大学の授業では、オノマトペを活用しながら伝え合うことについての内容を指導できた。そして、リトミックを通して演じたり遊んだりする内容も指導できた。このことから、十分に指導できていると考えられるため◎を付した。

Ⅳ．考察

A短期大学では、歌あそびの分野において春、夏の教材を取り上げることが多く、教材の季節感に偏りが見られた。これは、開講期にも起因すると考えられる。しかし、保育現場における歌あそびについては、春夏秋冬の歌を取り上げ、その指導法などを検討しなければならないのではないかと考える。そして、ピアノ・テクニックでは、ピアノの技術に偏り、子どもの表現を導くピアノ曲を取り上げることはなかった。そこで、子どもの表現を導くピアノ曲は、短い動機を用いてリズムパターンを変更することによって完成されることもあるため、弾き歌い伴奏法と併せてリズムパターンを学習する必要があると考える。

B短期大学では、オムニバス形式による授業展開を採用しているため、３週に１回の授業を受講することになっていた。授業内で取扱う教材数を増やすことには限界があり、他の教員との連携も課題となっている。また、子どもの発達過程における特徴については学習しているが、その他の表現の理論については学習できていない。このことから、音楽的な表現の授業のみならず、広く領域「表現」に関わる科目間連携についても検討する必要があると考える。

（1）、（4）、（5）、（7）について２短期大学では、造形的な表現の分野において授業内容が充実していない現状がある。そこで、造形分野の教員との科目間連携が必要であると考える。しかし、様々な素材を用いてペープサート、パネルシアターなどの作成に取り組むことによって、造形的な表現の分野へも目を向けることができるのではないかと考える。また、イメージをふくらませて音楽と造形作品との融合などの教材についてふれる経験も必要であると考える。

（2）及び（3）について２短期大学では、どうしても音楽的な表現の要素が強く、子どもの生活にお

ける発見や感動についての授業内容が充実していない現状がある。そこで、様々な事物にふれる経験を取り入れ、子どもへ感動体験を語ったり、イメージをふくらませる経験をしたりしながら、学生同士が共有することが必要であると考える。

（６）及び（８）について２短期大学では、学生へのアプローチ方法は違うものの十分に指導できていると考えている。しかし、学生が歌を歌うことに偏っていないか懸念されるところである。歌を扱うのであれば、歌詞の意味や音楽の背景などを学習する必要であると考える。また、保育現場における音楽的な活動を観察する経験も必要であると考える。

Ⅴ．まとめと課題

本研究は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に則した授業計画及び具体的な授業内容を確立することを目的として始めたものである。そして、筆者たちが担当する授業内容をまとめ、比較した上で幼稚園教育要領と照合したことにより課題が見出せた。また、把握した課題をもとに授業改善へと繋いでいきたいと考えている。

特に課題として確認できたことは、まず、幼稚園教諭免許及び保育士資格のための授業であるにも関わらず、授業の展開方法が違っていることである。これを２短期大学の教育課程の中で揃えることは難しい。しかし、対象とした科目の教授内容についてはある程度の統一を図らなければ、同じ免許・資格を取得し保育現場へ出て行った学生の混乱を招くのではないかと懸念される。

次に、教員間の連携や科目間の連携が不十分であるため、どこまでをどの教員が指導するというような指導上のエリアを確立することができていないことである。保育内容の５領域を区分することは難しい。しかし、授業内容で重複する部分があっても良いのではないかと考えている。このことから、５領域を担当する教員の連携が必要であると考える。

教員が自らの専門分野を授業展開することは当然のことであるが、その専門分野に偏りすぎることには特に注意しなければならない。そして、広く子どもの発達過程をふまえた授業内容を展開し、各学生の興味や関心によって、一つの分野を深く学習できるような環境を作ることも我々教員に与えられた使命ではないかと感じている。

注・文献

1) 齋藤正人・木許隆（2017）:「領域「表現」における科目間連携の一考察 - 授業内容の改善を目指して - 」，岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要第17号，岐阜，171-178.
2) 文部科学省告示第62号（2017）:「幼稚園教育要領」，フレーベル館，東京，20-21.

参考文献

1) 高御堂愛子・植田光子・木許　隆監修（2017）:「保育者をめざす楽しい音楽表現」，圭文社，東京.
2) 厚生労働省告示第117号（2017）:「保育所保育指針」，フレーベル館，東京.
3) 内閣府・文部科学省告示第１号・厚生労働省（2017）:「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」，フレーベル館，東京.
4) 文部科学省告示第62号（2017）:「幼稚園教育要領」，フレーベル館，東京.